

尚綱大学生によるレポート15

今回は議会傍聴後に、大学キャンパスで議員の方々と意見交換会をおこないました！

議会傍聴「傍聴をして変わった意識」

私たちは、社会調査法という授業の一環として大津町議会の傍聴をしました。

予算案では、放課後支援施設指定管理者の決定について議論がなされていました。真剣に議論されている姿からは、大津町の未来である子供たちの周辺環境を本気で守って、作り上げていきたいという熱意が伝わってきました。

一般質問では、1人の議員に対し1時間と決められていたためか、濃い質疑応答の時間であったのではないかと思います。とてもスムーズに議論がなされているので、最初は台本通りに進む議会なのだと感じました。しかし、追加の質問をされても、しっかりと答える町長や他の職員の方をみて感銘を

受けました。

私たちの共通認識として、議会はとても硬い雰囲気で行われていると思っていましたが、傍聴した日によっては、穏やかに質疑、討論が行われていたことに驚きました。



発表者メンバー

- ・末山、直井、後藤、松成、興梠
- 文責
- ・興梠

交流会

「まづかで交流して気づくこと」

今回の議員の方々との交流会は、私たちにあって貴重な経験となりました。

まず、議員の方々に自己紹介をしていただきました。

その中で、もともとは農業やJRなどで働いている一般の町民の方が議員をされていることを知り驚きました。この活動内容は多岐にわたり、この交流会を通して、選挙に行くことの大切さ、選挙権の重みを改めて感じました。

議員の方からも学生に対し「傍聴して議員になったか」と思っただか、興味を持ったか等の質問がありました。それに対し、学生側から「議員や議会というものに硬いイメージがあるため、今回の交流会のように、議

員と町民が触れ合える機会を設けるといいと思う」といった意見もありました。

また、議会傍聴をしたことがない学生の意見も聞いてくださり、傍聴するだけでなく、そのあと自分ごとという考えを持ったのかまとめられる機会にもなり、とても有意義な交流会となりました。

